

地域林政対談 イン菊池

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十七弾は、熊本県菊池市の江頭実市長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



菊池溪谷

菊池渓谷は菊池市民の誇りである「菊池市長」

まず、九州森林管理局また熊本森林管理署の皆様には、昨年の4月16日に発生した熊本地震により被災した菊池渓谷の復旧に向けてご支援いただき感謝申し上げます。

菊池渓谷は安全性を考慮して熊本地震発生以来、入谷をご遠慮いただいている。震災発生当初は、県道45号が山腹崩壊して現地を確認に行くことができなかったが、熊本森林管理署から情報提供いただき、被害の全容が判明したところ。また、九州森林管理局、熊本森林管理署、熊本県との連携、情報交換により早期復旧に対する道が開けた。現在は、熊本森林管理署による県道45号の復旧対策工事が完了して、片側通行も再開し、菊池渓谷への入谷再開に向けた準備が整いつつあるところである。

菊池渓谷は菊池市民の誇り、観光の目玉、キラークンテンツである。昨年策定した阿蘇くじゅう国立公園の満喫プロジェクトスナップアッププログラム2020でも重点取組地域となっており、菊池市としても環境保全に取り組みつつ、創造的再整備を図っていきたくと考えている。平成27年度は20万人の集客であったが、100万人を集客できる潜在能力があると思っっている。具体的には、満喫プロジェクトによる渓谷館のリニューアルや、熊本県のご協力をいただいて九州自然歩道の整備を行いたいと考えている。8キロメートルの延長の中で、水のきれいな渓谷、草原、そして阿蘇のカルデラを眺められる。世界的に見ても非常に貴重な場所だと思っている。渓谷内の遊歩道の再整備や新ルートの検討、景勝ポイントの整備も考えていきたい。また、

渓谷の魅力を伝えられるガイドの養成も考えている。景観を壊さず安全性、環境に配慮しながら復旧を進めていきたい。

菊池市の森林・林業の現状については、近年の木材需要の停滞、木材価格の長期低迷に伴い、森林所有者の経営意欲が薄れてきている。管理が放棄された森林については、県の水とみどりの森づくり税を財源として管理しているところである。

市内に3つの林業研究グループがあるので、そういった団体の育成を図りながら活動支援を行っているところ。また、路網整備や高性能林業機械の導入にも取り組んでいる。八代港から中国等への木材輸出にも取り組んでおり、輸出は今後の木材需要の道しるべになるのではないかと考えている。



江頭実 菊池市長

(菊池溪谷の復旧・復興)

菊池市長 熊本地震により菊池溪谷に入れなくなつてその重要性に改めて気がついた。菊池溪谷だけに頼らない観光作り、また被害を受けたことを、ピンチをチャンスととらえて、これまで出来なかつたことに思い切つて取り組んでいきたい。目先の復旧というだけではなく今後もっとたくさんの人に来てもらつて、菊池の良さを味わいながら、菊池に一泊、二泊と滞在してもらつてファンになっていただきたい。利便性と安全性を確保しながら九州の代表的な観光地としてグレードアップしなければいけない。

森林浴ヨガ、野鳥の森の活用、九州自然歩道の整備、阿蘇との周遊など知恵を出してやっていきたい。

九州森林管理局長 インバウンドについては、政府としても力を入れており、国有林でも菊池溪谷を含むレクリエーションの森において、多言語看板の設置等の整備を進めているところ。森林資源を活かして地域に貢献していきたいと考えており、国の事業を火付け役として、地域が自立的に取り組んでいけるようにしていきたい。菊池溪谷においては、森林セラピーや企業と組んで2泊3日の健康管理プログラムのようなことも考えられるのではないかと。

市長 まさにヘルスツーリズムということで、健診センターとタイアップして、菊池溪谷と健康診断等をセットにした取り組みも行っている。今後は、そういった取り組みをコーディネートする人材の育成が必要である。

局長 さらに林業体験を組み合わせるということも考えられる。

市長 農泊にも力を入れているところで、モデル農家が5軒くらいやろうということ動き出している。また、森林を活かしたフォレストアドベンチャーもやってみたい。

(森林・林業の再生と魅力ある林業経営)

市長 林業の後継者については、菊池市では若手が元気で、それほど危機的な状況ではない。しかし、本来の林業というものをどうやって立て直すのか、なかなか展望が開けない。

局長 森林資源が充実してきている中で、国有林では、伐採と造林の一貫作業によるコスト縮減であったり、木材の需要先と安定供給に関する協定を締結して販売するシステム販売に取り組んでいるところ。国有林と民有林が団地を作つて、民有林材も併せて

量をまとめて売る協調出荷にも取り組んでいる。資源は充実しているので、山側がある程度の量を安定的に出せることを示せるとよい。

市長 昔は急傾斜地にも植えたが、伐つた後さういうところにまた植えるのかという点と難しい。

局長 森林・林業基本計画では、人工林のうち4割程度は、天然林等に誘導していくこととしており、伐つた後にどういう山にしていくなのか、また同じスギ、ヒノキを植えるのか、将来を考えながらどういう山づくりをしていくべきか、戦略を描いていく必要がある。

市長 所有者の関心があるところはよいが、関心のないところは荒れるばかりで、災害が発生するリスクもある。山奥は民間に任せずに国や市が管理して自然の雑木林に戻すなどしっかり守っていくべき。

局長 現在、林野庁では森林環境税の導入を検討しているところであり、なかなか手が付けられない山を公有林化する財源に使えないかということと考えており、是非とも実現したい。一方で、もう少し林業経営をがんばろうというところは別の仕組みを作るということで、両面で支えられないかということも考えている。

熊本森林管理署長 国有林では公益重視の管理経営、それから森林林業の再生ということで、林業の低コスト化やシカ対策にも取り組んでいる。今後、菊池市をケーススタディ地区として、市町村森林整備計画の作成支援等をしていきたいと考えている。



菊池溪谷

地域林政対談 イン 菊池

平成29年8月2日(水) 15:30～17:00

熊本森林管理署会議室

出席者(敬称略)

○菊池市

江頭 実 市長

谷田 修 経済部長

○熊本県 県北広域本部 農林水産部

本田 裕範 林務課長

中島 守 林務課 主幹

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行 九州森林管理局長

森 勇二 熊本森林管理署長

勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

